

---

essais ころみ 2018年10月

---

2018年10月3日（金） 晴のち曇

昨日も今日もよく晴れた。30日はまた台風。前回より南寄りに通過したので、21号ほどの被害はなかった。そして今後は25号。この週末に接近の予報。今年はこれで最後か

-五感覚と学びの関係考④-変わる人間

テレビのなかった時代を知る著名な評論家が、テレビが世に出たきた時、日本の未来を憂いて世にはなつた有名な忠言がある。今の世では口にするにはできないが、もし当の評論家が生きていて、ケータイ・スマホに興じる人々をみたなら、何と称すだろう。

1年ほど前だったか、地下鉄なんば駅ホームで通りすぎる人たちを見ながら、“いつからこんなにヘンなになったんだろう…”と感じてしまった。姿勢の悪い歩き方、まわりを気にとめない「歩きスマホ」、後さきを考えていない風の緩慢な動作、女性にもみられるようになった「米国型」の肥満。

『道具はわるくない、それを使う人間側の問題』。それもそうだが、個人的にはもっとよく考えて作ってはどうかと思う。ともあれ、「文明」や「経済発展」の面からも、新しいモノやサービスが生まれては、社会を変え、人間を変えていく。

こうして遠目に見られることがいいのか、どうか。そう見てしまうから、仕方ない。さらに先日二人の女性から聞いた男性の話には驚いた。いま刻々を進んでいる人間の変化の一端をみる思いだった。精神的に大人になっていない男性たちがじわじわと増えていそうな。

『大人とは人の哀しみに涙できること』と言った人がいる。人の哀しみや大変さ、そういった感情が養われていない男性たちのリアルな例を聞いたのだった。わたしが普段交流する男性たちとは違う、今の時代ならではの「新男性人類」。

もちろん男女ともに言えることだけど、同じ女性も立場からすると、これからはよく相手を見てパートナーを選びましょうと勧めたい。観察力、審美眼を養っておいた方がいい。いやはや本当に大変な時代になってきた。「岡潔」、「中井久夫」の『情あつての知』を想う

2018年10月11日（木） 曇

書店・文具店によく来年の手帳・カレンダーが並んだ。ジャバラ型の年間予定表は早々に買っておいた。あとは細かい予定を書けるもので、ここ2、3年同じものを使っている。でも他に良いものがあれば変えようと、数ある陳列棚を探し出す。ただし、どれもこれも一長一短。そのうちはっと気がつき、“まだ時間はある、今後にしよう”。

-五感覚と学びの関係考⑤-『皮膚は考える』

昼食がてら梅田の紀伊国屋書店内を散歩していた時、ふと目にとまった本が『皮膚は考える』（傳田光洋 岩波科学ライブラリー）。

序章の「感じ考え、判断し行動する皮膚」が興味をひいた。脳科学、認知科学の本を読んでいたし、もともと皮膚が少し敏感なこともあって、読んでみようという気になった。

読んで、腑に落ちた。皮膚がセンサーというのが納得した。気分や気配は皮膚がまず感じとっている…。阪神淡路大震災を思い出した。前の二日間に感じた不穏な気配は皮膚からの注意喚起だった？

この本の一番の収穫は「むすび」の章。脳科学、認知科学の本を読むきっかけになった「松本元」と著者とのエピソードが語られている。出会いと交流のストーリーが実に心に響く。

そして何より「松本元」が東洋医学に関心をもち、効用を認め、いずれ科学的に解明されると話していたということ。著者も同じように考えていたし、わたし自身も、門外漢ではあるけど、そう思っている。

この本にさほど興味ない人も、「むすび」だけでも読んでおくといい。例えば次のくんだり。『表皮の状態の変化がさまざまな面で心や身体に影響していることも確実であると思われます』。

結果的に皮膚の状態は仕事の能率にも係ってくるのではないか

2018年10月15日（月） 曇り→晴

暑くもなく寒くもなく、過ごしやすい十月中旬。ふと気がつけば、暑さのあまり中断していたこと多々。朝のプチ体操もそう。7分ほど体を動かすだけで、またやる気を取りもどした。、気候の影響は小さくない。夏の間運動不足をこれからを取り返すでしょう。

#### -五感覚と学びの関係考⑥-耳の〈聴く〉態勢

今から5年ほど前に学習塾を開いている人から聞いた話。最近の生徒は一度で聞き取れない人が増えているという。

例えば、「53ページを開けて、中ほどの図を見てみて」と言っても、えっ、えっ?!という感じで隣どうし見合っている。複雑な指示でもないのに、パッと耳に入ってこないらしい。

わかるような気がした。場面は違うけど、わたし自身が経験したことと通じる。1年ほど遊学して、再び仕事の現場へ復帰した時のこと、まだネットのない時代、電話が鳴り、受けたと同時に先方が発した社名と氏名を聞き落とした。ごくごく普通のやりとりなのに、聞き取れなかったのだ。

えっ?!と我ながら焦った。失礼にも名前をもう一度言ってもらって担当者へつないだが、いやー、驚いた。仕事の場から1年離れると、耳もそれに慣れて、電話を受ける態勢を解いてしまっていた。この時に痛感、人間はスゴイ。どのような環境、状況に身をおくか、すごく大事なんだと、わが身で学習。

聴くことが少なくなれば、聴く感度も徐々に低下するに違いない。自分以外の誰かの話を聴くことは、考えることでもあるから、考える頻度も徐々に低下するはずで、新井紀子先生が子どもたちの読解力低下に警鐘をならしているのも、ネットを生活の道具にした一つの結果。

自分の話は聴いてほしいけど、人の話は聴けないという人が多いともいう。この場合の聴けないというのは、相手に関心が持てない！ことからきているのではないか。自分に話たいことがある分、相手にもあるはずと思うのは、ごくごく普通に感じる人間の情。そういうものが希薄になっている。大人にも情操教育が必要なのではないかと思う昨今。

いま「新書」が読めない人が増えているらしい。視覚的にも聴覚的にも読解力の低下は防ぎようがないかもしれない。ただ皆がみなそうなるわけではないから、だとすると、未来社会は歴史を遡りそうな気もしなくはない。庶民にとってはまり歓迎できない事態だろうが。

ところで先月クレオ大阪東館の企画担当者の方に、「最近一番人気のあったセミナーは何でしたか？」と何気なくたずねたら、返ってきた答えは、「傾聴でしたね」

2018/10/17 (水) 八尾の男女共同参画センター「すみれ」前の団地の小さな秋



2018/10/20 「a la main」  
(土)

十二夜サロン、オーナーのプロデュース力に感心するばかり。オープンからはや3年、試行錯誤をかさねていよいよ「a la main」ならではの感じがにじみ出てきました。参加者の語らいも弾みます。大人の会話のできる、最近では希少な場所です。



メンバーの一人から、「一年遅れですが」と誕生日プレゼントをいただく。長くたのしめるようにと、ボトルの置き物。さっそく事務所の卓上棚に。



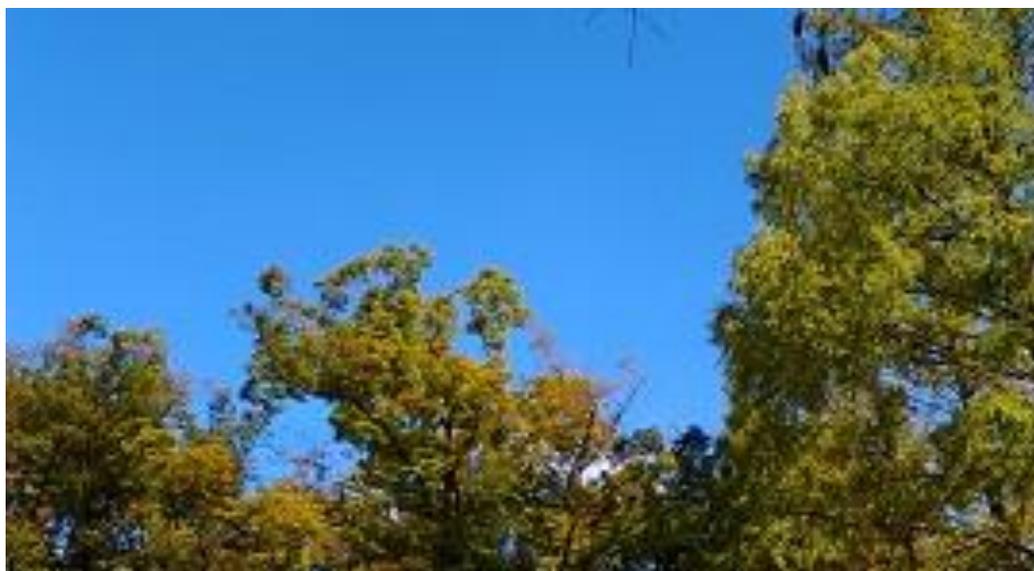
2018/10/21（日） 昨年の松原商工会議所創業塾受講者たちが企画実施する「マルシェ」へ散歩



9月の「十五夜」は望めませんでした、  
「十三夜」



2018/10/25（木） 夕陽丘で会議があり、その前にうつぼ公園を散歩



2018年10月26日（金） 晴

ここ数日秋晴れ。夏の間遠のいていた「歩き」をぼちぼち再開。昨日も会議に出かけるついでに「うつぼ公園」を少し散歩。ここでも9月の台風で大きな木がいくつか倒れて周囲にロープが張られていた。大阪市内だけでもそこそこに台風の爪痕あり。

-五感覚と学びの関係考⑦-関心, 感心, 歓心

夕陽丘のクレオ大阪中央館4Fに大阪市の事業「女性チャレンジ応援拠点」がある。これから何かを始めたい人、すでに始めている人たちが予約なく気軽に相談できる場所。水曜日の夜はわたしが来室者の話を聴いている

広すぎず狭すぎず、部屋の中央に楕円の大テーブル。東はガラス張り、一昨日は上がったばかりの満月を望んだ。西側の壁面は飾りすぎず淋しすぎず、情報を掲示。部屋は4階の隅にあるので、前を行き来する人はなく、来室した人も気が散ることがない。

さらに夜は外が暗くなるので、入口ドアを開け放したいたってオープンな場だけど、来室した人は自分たちのためだけのクローズな空間にいるような気分になると思う。だから気持ちはオープンになる。もちろんこちらもそうなるよう努めるのだけど。

初めて会ったどうしの来室者たちが、わりと率直に自分の話をし、他の人の話にもしっかり耳と傾ける。来室者の多くは何らかの専門性を備えた人が多いので、一つのトピックにいつかの見地、知見を得られたりする。そんな交流になるのも、場のチカラ・働きではないか。

13年ほど前、ある経営塾の開催場所が地下だった時がある。午前から夕方にかけての塾だったが、何かしらいつもと違って意気が上がらない。自分でも不思議で、どうしてだろうと考えてお昼頃にハッと気づいた。外の様子も光もまったく遮られた場のせいに違いない。

もっとひどかったのは著名な建築家設計のコンクリート張りの建物でセミナーがあった時。海のすぐそば、立地はよいし、外が見えないわけでもないのに、宿泊も同じ建物内だったせいか、コンクリートに取り囲まれ、思考まで固められているような感じ。終わった時はほっとした。

会社員時代から、空間のあり方が大事なことは暗にわかっていた。今もとってある「日経サイエンス」2003年12月号特集「脳力最強の科学」には、施設的环境が脳の働きに大きな影響を与えることがわかってきたと書いてある。研究は進み、それもはっきりしてきた。

五感に関心、感心、歓心。